

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290300017		
法人名	有限会社それいゆ		
事業所名	ぐるーぷほーむしあわせの家かんなみ		
所在地	田方郡函南町間宮617-3		
自己評価作成日	平成21年12月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOリブグリーン
所在地	〒410-0822 静岡県沼津市下香貫宮脇323-3
訪問調査日	平成22年 1月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が、より自分らしさを発揮し地域社会の中で充実した暮らしをしていただけるよう支援しています。月に一度地域の方が集まる自治会のサロンには毎回参加し、創作活動や健康体操、歌やお話などを一緒に楽しんでいます。地域の児童や学生の福祉体験の受け入れの場面では、三世代間交流を実感していただいています。その日の昼食は入居者にメニューを決めてもらい、買い物に行き調理のお手伝いもしていただいています。一方、職員の資質向上に力を入れており、接遇、コミュニケーション能力、介護技術など、毎月社内セミナーを実施しています。各職員は日々の支援業務を数字で把握し、客観的に見る力を養っています。医療連携では月に2回の往診診療を実施しており常勤の看護師がサポートすることで家族の方に安心していただいています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園の良好な環境に位置し、施設内においても日照の良いホットなムードの内、当該者間の元気のよい挨拶・声と気づきを重要視した雰囲気を感じられ好感がもたれ、又ホーム長の創意・工夫が見られ、利用者本意を基本にし、関係官庁及地域交流も計られ、地域の一員としての関係を築く工夫が見受けられます。冒頭に記するように、ホーム長の充実した帳票書類等に基づいた職員間の会議や研修が行われ、それを利用者及家族に反映し向上に努力しています。ホーム長の介護の多大なる強い思いとホーム長(職員共々)の高揚感の高さを感じました。又、食事が美味しく、たまたまバースディパーティーが行われ家族感が味わえて好感が持てました。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議において、レンマ様式のレターヘッドに理念を予め印字しており、2～3か月に一度は読み合わせをしています。また、職務において判断を要する場面では理念に戻った考えをするよう心がけています	ホームの玄関を入ったところに理念が掲げられています。職員会議を通して読み込みをしたり、日常の介護現場では、理念を念頭に入れた業務がなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の親睦交流を目的の一つとした生き生きサロンの集まりが月に一度開催され、毎回参加しています。また小学校・高校の福祉交流体験の受け入れをしており、入居者の方との弾んだ会話が見られます。	計画的施策に依る、地元自治会や地域の保育園、小・中・高校との交流がされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバン活動の一端として、地域の方に認知症をやさしく理解していただくための勉強会などの活動をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	三ヶ月に一度、実施しています。この間のホームのできごとや、生活風景、ひやとしたこと、ボランティア交流、外出や行事等の紹介をし、メンバーの方から貴重な意見をいただき、運営に反映しています。	運営推進会議では、利用者家族代表、自治会区長、民生委員、ボランティア連絡協議会、議会文教厚生委員、事業法人代表が出席し三ヶ月に一度実施され、ホームの状況を報告し、地域密着を目指した運営のあり方について検討されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当窓口とのホットラインを意識しており、各種報告や研修の講師依頼を受けたり、認知症に関する専門性を活かした連携やホーム運営、質の向上につとめています。	年度ごとの外部評価の結果報告を担当窓口に行っています。認知症キャラバンメイトの活動など連携・協力がとられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットの出入り口は鍵をかけていないが、玄関については、脱園が頻回したため、生命の安全を想定して現状では施錠を実施しています。	ホームで関係者に対して身体拘束の排除に努め、基本的に各ユニットの出入り口、各個室のドアなどは開放し、玄関については生命の危険が及ぶとして施錠をしています。	
7		○虐待の防止の徹底	全社の職員を対象に虐待防止の関わる研		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	修会を実施しています。認知症介護研究・研修センターの「高齢者虐待防止教育システム」の内容を使用し事例検討をグループワークで話し合い、理解に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議(7月度)においてミニ研修に取り入れ、成年後見制度の概要・手続き等について資料を配布して研修をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項を読み上げて、理解・納得してしていただいたうえで契約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、家族に対するアンケートを実施しています。そこでは利用者について・運営について・職員についての意見をいただき、又自由に記述していただく欄もあり、いただいた意見は運営に反映しています。	入居者家族に対してアンケート調査が実施されています。寄せられた意見で、可能なものは実施(管理者不在時の金銭預りの方法等)に移しています。	アンケート調査を図形化し、より鮮明にして行き、当該者の共有化に努め、対応していく努力ができることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談の際には自由に意見を言う機会があり、出てくる貴重な意見は事業運営に反映するようにしています。	職員の個別な意見を聞く機会もあり、半年に一度、目標管理の進捗ヒアリングを含め個人面談が実施され、職員と管理者のコミュニケーションがとられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいやモチベーションスキルを高く持ってもらうよう「目標管理」を導入し、管理者も率先して推進しています。休憩時間はきちんと取るように申し合わせをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ジョブカード制度を利用した職員育成のほか、職場内外の研修には非常勤勤務の方も含めて参加していただき、外部研修の場合は、持ち帰って内部で報告研修を行い、水平展開を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センターが主催する会議に参加し、他の事業所の方との交流をしたり、研修に参加して互いの職場の刺激や啓蒙の機会を得ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に体験入居をして慣れていただき、本人が納得・安心した上での入居など、その方に合わせて臨機応変に対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にはできるだけ訪問を促し、本人とともに早くホームに打ち解けてもらうようにしています。初期はアセスメント情報を念頭に入れコミュニケーションに力を注ぎ早く信頼関係が気付けるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークで主訴を確認し、地域密着を念頭にインフォーマルサービスも視野に入れて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションに力を入れており、日々の生活の中でバリデーションを取り入れた共感を軸にしたケアを実践しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問では、できるだけゆっくり、気づかいなく気軽に話せるよう、個別のシチュエーションや雰囲気考慮した対応をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの行きつけの美容院や歯科医院など、本人の馴染みの関係を維持できるよう家族の協力のもと支援をしています。	利用者の行きつけの美容院、歯科医、お菓子屋さん等への外出があり、これまでの関係作りが継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のタイミングによっては同じ話題やゲームで輪になって楽しんでもらったり、不穏な場面では利用者同士のトラブルを避けるためにも職員がそっと寄り添い、さりげない支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られた利用者の家族に電話し、その後の様子をうかがい、困った時にはいつでも気軽に連絡いただけるよう申し添えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者とのコミュニケーションや観察を通してやりたい事や希望することを入手し、その人らしさをより発揮できるように努めています。	職員は利用者支援としてのコミュニケーションスキルを大事にし、それぞれの日々の業務チェックリストを記録し、利用者から得られた思いや希望等を会議の場で共有し反映しています。	センター方式のアセスメントを使用しているが、B-4暮らしの情報(私の生活環境シート)の項についてさらなる有効活用を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約の際、介護計画の作成について家族の協力依頼も含めて一通り説明し、本人の生活史などの記録について家族にシート記入をお願いし、できるだけ詳しい内容の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族のアセスメントから、これまでの過ごし方や趣味・嗜好について把握したうえで、ホームでの暮らしぶりを観察し、介護計画に生かすようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	看護師、夜勤主体・日勤主体の各職員と計画作成担当ケアマネージャー、家族を含め、サービス担当者会議を開いて介護計画を検討しています。日々の処遇内容についてはリーダーが各利用者ごとの介護内容をモニタリングしています。	日勤リーダーは各利用者の介護計画の個別目標からツリーダウンしてきた「本日の支援内容」をチェックリスト形式で点チェックし、モニタリングを含めて実施しています。	「センター方式」のアセスメントを全職員の参加のもと実施されています。ただし全シート(A~E)使用までには至っていない(現状A~Cまでを利用中)のでさらなる充実を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の処遇計画にもとづいて日々チェックし、実践内容の確認とチェックをしたうえで変化があればケース記録に残すようにしています。さらに月例会議のカンファレンスで取り上げ検討し情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ法人内の他の事業所との交流や行事参加を通して利用者のいい笑顔が見られたり新たな発見を得ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	演芸ボランティアの公演、地域自治会のサロンへの参加など地域資源を活かした交流や認知症普及キャラバン活動など協働を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に案内し、了解を得たうえで、病院やクリニックの協力を得て月に2回の往診診療を実施しています。	月に2回の往診の他、突発的事柄や緊急時は連絡をとって指示を得たり、看護師が受診同行したりしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月曜日から金曜日の9時から17時まで看護師が勤務し、利用者の体調不良や緊急時対応、医療相談内容の橋渡しなどを専門的立場で利用者の日常のサインを見落とさないように対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、ホームの看護師やホーム長を通して利用者の医療にかかわる情報提供をしており、入院中も訪問して変わったことがないか、退院に向けての病院側からの相談を受け、協働して利用者の支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを視野に入れ、緊急時を含めた医療対応の充実を進めています。法人としての方針を検討し、家族の協力を得たうえで具体的化していきたいと思えます。	往診医療を進める中で家族の理解度も増しており、徐々に必要性の認識ができてつつあります。法人の方針を詰めた上で共有を図り進めていくことを期待します	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急体制、医師等への伝達基準を事務所に掲示し、全ての職員に緊急連絡網を配布しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度の地域の防災訓練の日に、利用者全員で避難場所に徒歩でコースを確認し、前年においては避難階段をつかった訓練をしています	地域指定の避難場所が200メートルの所にあり、全員徒歩で場所確認をしています。所管の消防署の防災設備点検も受けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊重を運営方針に掲げ、接遇面では尊厳を重視し、羞恥心に配慮した対応をするよう心がけています。	接遇面も含め尊厳を重視した言葉使い、利用者本人が嫌がる言葉や声の大きさなど全職員のルールやマナーとして細かく決めています。乱れがある場合は職員の振り返りを実施し職員会議で再確認がされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションでは開かれた質問を心がけ、会話の中で自己決定を促すようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務のための介護ではなく、生活のための寄り添いの支援を目指しており、利用者主体の生活シーンはいかにあるべきかを考え、実行するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣服や帽子など、利用者のその人らしさを大切に、また、こまめに美容院に行ったりしています。化粧する方には化粧品の残量を調べたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝10時のティータイムにはその日のお昼に食べたいメニューをうかがい、買い物に行って利用者の手伝いを得ながら昼食の調理をしています。職員も一緒に昼食をとり、時の話題や料理の話などを楽しみながら召し上がっていただいています。	外部調理の夕食を除き、食材はスーパーや近場の魚屋などで毎日新鮮なものを利用者と一緒に出かけ買い求めています。月に2回は、元板前さんによる割烹等の料理を楽しんでいます。また行事食でのバイキングは家族も参加して楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の水分チェックリストを記録し、また食事については利用者の健康状態に合わせた調理形態や量などを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の前には口腔体操を、食後は口腔内、義歯、舌面の清潔維持のためのケアを実施しています。また、義歯の不都合が生じていないか観察しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間、紙おむつの方においても日中外せる方はできるだけ布パンツにさせていただきなど自立支援を目指した支援をしています。また、排泄パターンを念頭に時間内の声かけをできるだけするように心がけています。	排泄チェック表を全員記録し、声かけのタイミングを失しない努力がされています。紙パンツ着用の方も適時の誘導をすることで日中だけでも布パンツにするなど、利用者に合わせた努力がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量を記録し食物繊維の多い食材をなるべく使用したり、毎朝の運動や散歩、下剤の過剰使用がないか、観察・予防をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制にしており、香りの湯やミカンの皮を入れたりして楽しんでいただき、また職員とのホットなコミュニケーションの場にもなっています。	入浴は毎日実施しており、暖まるだけでなくコミュニケーションの場として、また大きめの湯船には2人で入る方もおられ楽しみの時間となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の習慣的な時間に合わせて、遅い時間に休まれる方にはその時間までゆっくり職員が寄り添って、安心して眠りにつけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については二名の職員が確認した上で実施しています。薬の商品名や効能については利用者毎に一覧にして事務所に掲示しており、いつでも見れるようにしています。看護師は薬量が適切かどうか細かな症状を観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や得意なことに合わせて各々役割を持ってお手伝いなどをしていただいています。時には利用者がピアノを弾いたり編み物、調理や片づけ等を楽しみながらいただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日はなるべく戸外にでて気分転換をするよう促し、実行しています。また、日々の昼食の食材の買い物や散歩などもできるだけ同行できる方は率先して外出するようにしています。	ホームとして、外出や訪問(来客)を進め、開かれたホームを目指しています。透明度指標として外出頻度を述べ人数で出しており、統計データとして計画的な外出支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者の方が金銭管理は困難な状態ですが、一緒に買い物についてお釣りを受け取る役目をしていただいたり、その方に合わせた支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方はファックスで文書を送ったりしています。本人宛にきたお手紙は一部の家族の方から開封を依頼されている場合を除き、日付を書き込んで未開封のまま本人に手渡ししています。また郵便を出したい場合は職員が同行して近くのポストに行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日早出職員が清掃しており、また、花や壁飾りの創作物等を飾って季節を感じ取れるようにしています。また陽光によるカーテン調整やこちよい音楽BGM等の気配りをしています。	居間では半円形や正方形のテーブルが部分使用され、空間の変化に富んでいます。広い通路部分の置かれた椅子やソファは利用者が個別に寄り添える空間としての機能が活かされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳コーナーでは思い思いに腰掛けて居場所が確保できるようにしています。また、テラスにはベンチを置き、畑を見ながら腰掛けてくつろげるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室には家族の写真や趣味の作品などが飾られており、小さな椅子があり来客時でもゆっくりしていただけるような配慮がされています。	入り口には手作りの表札があり、各個室においては飾り物や使い慣れた家具など、ご自身の部屋としてのこちよい癒し空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、通路やトイレは手すりがあり、車いす対応スペースが確保してあります。		